

日薬業発第 349 号
令和 6 年 1 月 12 日

都道府県薬剤師会担当役員 殿

日本薬剤師会
副会長 渡邊 大記

「薬剤師のキャリア形成促進に関する研究」へのご協力のお願い（周知依頼）

平素より、本会業務に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

厚生労働省「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会」が、令和 3 年 6 月 30 日に公表したとりまとめにおいて、薬剤師の資質向上を確保する方策として、卒後研修、生涯研修等に関して実施体制等を検討することが示されました。

こうした状況を踏まえ、令和 5 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）薬剤師のキャリア形成促進に関する研究（研究代表者：山田清文 名古屋大学大学院医学系研究科医療薬学／名古屋大学医学部附属病院教授・薬剤部長）において、薬剤師のキャリア形成と資質向上に関しての調査研究を実施しております。

同研究には本会も協力しており、このたび薬局薬剤師のキャリア形成についての現状と課題を把握するため、**令和 6 年 1 月 15 日（月）より**「薬局開設者若しくは薬局管理者」、「免許取得から概ね 10 年以内の薬局薬剤師」を対象に別添のとおり Web 調査を実施することといたしました。

本調査の実施に際しては日薬誌 2 月号での案内及び同月の「医薬情報おまとめ便」へ案内の封入をして、各薬局への周知・協力のお願いをする予定です。

つきましては、都道府県薬剤師会におかれましては貴会会員に本 Web 調査のご周知をいただきますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

「薬剤師のキャリア形成促進に関する研究」へのご協力のお願い

令和6年2月
日本薬剤師会

厚生労働省「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会」が、令和3年6月30日に公表したとりまとめにおいて、薬剤師の資質向上を確保する方策として、卒後研修、生涯研修等に関して実施体制等を検討することが示されました。

こうした状況を踏まえ、令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）薬剤師のキャリア形成促進に関する研究（研究者代表者：山田清文 名古屋大学大学院医学系研究科医療薬学・名古屋大学医学部附属病院教授・薬剤部長）において、薬剤師のキャリア形成と資質向上に関する調査研究を実施しております。

同研究には、本会副会長の渡邊大記も研究分担者として参加しており、このたび、薬局薬剤師のキャリア形成についての現状と課題を把握するため、以下の通り、「薬局開設者若しくは薬局管理者」、「免許取得から概ね10年以内の薬局薬剤師」を対象にWeb調査を実施することといたしましたので、会員の皆様におかれましては是非とも本調査へのご協力をお願い申し上げます。

1. 研究・調査名

薬剤師のキャリア形成促進に関する研究

2. 調査締切（回答締切）

令和6年3月予定

3. 調査対象

薬局調査：薬局開設者若しくは薬局管理者
薬局薬剤師調査：免許取得から概ね10年以内の薬局薬剤師（なお、1薬局内で3名以内のご回答になるようにご調整ください）

4. 回答方法等

以下のWeb回答フォームより回答をお願いします。

URL：<https://www.lslms.jp/portal/career-p/>

回答所要時間：それぞれ10分～20分程度
下記のQRコードからも回答画面に接続できます。



※薬局調査に関しては、Web回答フォームの都合上、前半部分と後半部分の2つの回答フォームに分かれていますので、必ず2つの回答フォームへのご回答をお願いいたします。

5. 調査内容

薬局調査

- 薬局の基本情報
- 当該薬局の薬剤師の研修状況
- 今後の薬剤師の研修のあり方

など

薬局薬剤師調査

- 薬剤師としての基本情報
- 今後の薬剤師の研修のあり方

など

詳細はWeb回答フォームをご確認ください。

6. その他

病院にご勤務されている薬剤師の方は、日本病院薬剤師会より同様の調査が実施されておりますので、そちらよりご回答をお願いします。

7. 本研究に関してのお問い合わせ先

日本薬剤師会 業務部 生涯学習支援課
薬剤師のキャリア形成促進に関する研究担当
電話：03-3353-1170（お問い合わせコード：5115）

日本薬剤師会より調査へのご協力お願い

薬剤師のキャリア形成促進に関する研究にご協力ください!



平素より、本会業務に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

厚生労働省「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会」が、令和3年6月30日に公表したとりまとめにおいて、薬剤師の資質向上を確保する方策として、卒後研修、生涯研修等に関して実施体制等を検討することが示されました。

こうした状況を踏まえ、令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）薬剤師のキャリア形成促進に関する研究（研究者代表者：山田清文 名古屋大学大学院医学系研究科医療薬学・名古屋大学医学部附属病院教授・薬剤部長）において、薬剤師のキャリア形成と資質向上に関しての調査研究を実施しております。

同研究には、本会副会長の渡邊大記も研究分担者として参加しており、このたび、薬局及び薬局薬剤師のキャリア形成についての現状と課題を把握するため、Web調査を実施することといたしました。

詳細は下記のホームページほか、日本薬剤師会雑誌2月号「お知らせ」をご確認ください。薬局・薬局薬剤師に対しての初めてのキャリアに関する全国的調査ですので、ぜひ、ご協力・ご回答いただけますと幸いです。

薬剤師のキャリア形成促進に関する研究

調査締め切り **令和6年3月**予定

薬局調査、薬剤師調査へのご回答は下記のURLから

<https://www.lslms.jp/portal/career-p/>



上記QRコードからでも閲覧できます。



公益社団法人

日本薬剤師会

令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)

薬剤師のキャリア形成促進に関する研究 薬局調査票(控)

本調査(薬局調査)は、薬局の開設者若しくは管理者の方がご回答ください。

※ 本様式はお手元の控用としてご利用いただき、ご回答は下記の Web 回答フォームよりお願いいたします。なお、セキュリティ等により下記 URL に接続できない場合は、スマートフォンなどからご回答いただいても構いません。

URL: <https://www.lslms.jp/portal/career-p/>

【ご回答締切:令和6年3月予定】

薬局名: _____

電話番号: _____ () _____

問1. 貴薬局の概要について

(1) 貴薬局の所在地をお答えください。

_____ 都・道・府・県

(2) 貴薬局の開設主体をお答えください。

1 法人 2 個人(→(4)へ)

(3) 法人の種類をお答えください。

1 株式会社 2 有限会社 3 合資・合名会社
4 合同会社 5 公益・一般社団法人
6 その他(具体的に: _____)

(4) 同一開設主体による薬局店舗数をお答えください。(貴薬局も含まず)

()店舗

(5) 貴薬局の令和5年10月の処方箋受付枚数をお答えください。

1 0~99枚 2 100~499枚 3 500~999枚
4 1,000~1,999枚 5 2,000~2,999枚 6 3,000~3,999枚
7 4,000枚以上

(6) 貴薬局(及び管理薬剤師の方)が加入している団体についてお答えください。(複数回答可)

- | | |
|-------------------|------------|
| 1 日本薬剤師会 | 2 日本保険薬局協会 |
| 3 日本チェーンドラッグストア協会 | 4 いずれも未加入 |

(7) 貴薬局の表示及び認定薬局の取得状況についてお答えください。(複数回答可)

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1 健康サポート薬局 | 2 地域連携薬局 |
| 3 専門医療機関連携薬局 | 4 1から3のいずれにも該当しない |

(8) 貴薬局に勤務している薬剤師の人数(勤務実態がない薬剤師を除く)をお答えください。

薬剤師数(常勤換算※):()人

※常勤換算については、以下の方法で算出してください。また、常勤換算後の職員数は小数点以下第1位までお答えください。 ・1週間に数回勤務の場合:(非常勤職員の1週間の勤務時間)÷(貴薬局が定めている常勤職員の1週間の勤務時間) ・1か月に数回勤務の場合:(非常勤職員の1か月の勤務時間)÷(貴薬局が定めている常勤職員の1週間の勤務時間×4)

(9) 貴薬局での薬剤師の採用状況をお答えください。

	令和5年度採用 (中途入社含む)	令和4年度採用 (中途入社含む)	令和3年度採用 (中途入社含む)
薬剤師(既卒含む)	人	人	人
うち、当該年度の新卒薬剤師	人	人	人

(10) 貴薬局で「かかりつけ薬剤師指導料」及び「かかりつけ薬剤師包括支援料」の届出を行っている薬剤師数をお答えください。

()人

(11) 貴薬局の令和5年10月の「在宅患者訪問薬剤管理指導料」及び「居宅療養管理指導費」の算定回数、在宅業務に従事する薬剤師数をお答えください。

訪問薬剤管理指導料: ()回
居宅療養管理指導費: ()回
在宅業務に従事する薬剤師数: ()人

(12) 貴局に在籍する薬剤師の各認定の取得状況についてお答えください。

- 1 研修認定薬剤師(CPC 認証取得研修を含む) ()人
- 2 実務実習指導薬剤師 ()人
- 3 学会等の認定による認定薬剤師・専門薬剤師・指導薬剤師
 - ・認定制度名:()、()人
 - ・認定制度名:()、()人
 - ・認定制度名:()、()人

(13) 貴局での令和4年度の薬局実務実習の受入状況[※]についてお答えください。また、「受入あり」の場合は受け入れた学生数を併せてお答えください。

- 1 受入あり(受入人数: _____人)
- 2 受入なし

※ 主として実習生を受け入れた場合のみ。(OTC や在宅など一部の実習を委託された場合は受入数に含めない)

問2. 貴薬局での研修状況について

本調査における「新入局研修」は、新規に入局した薬剤師(新卒者、既就労者に関わらず)を対象とした研修とします。

(1) 貴薬局での「新入局研修」の実施状況をお答えください。

- 1 実施(又は実施予定)している(実地研修(OJT)を含む)
- 2 実施していない(又は実施予定なし)(→(8)へ)

(2) 貴薬局で実施している「新入局研修」の内容をお答えください。

- 1 新卒者、既就労者で同一のプログラムを実施 (→(3)へ)
- 2 新卒者、既就労者で別のプログラムを実施 (→(4)へ)
- 3 新卒者、既就労者で同一の実地研修(OJT)を実施(プログラムは未策定)(→(5)へ)
- 4 新卒者、既就労者で別の実地研修(OJT)を実施(プログラムは未策定)(→(6)へ)
- 5 その他() (→(7)へ)

(3) 「新卒者、既就労者で同一のプログラムを実施」の場合

- ① 貴薬局での研修プログラムに基づいた新入局研修の導入年月についてお答えください。
なお、導入年月が不明の場合は、概ねのご回答で構いません。

西暦 _____ 年 _____ 月より導入

- ② 貴薬局の新入局研修での研修期間についてお答えください。

- 1 1か月未満 2 1か月～3か月未満 3 3か月～6か月未満
 4 6か月～12か月未満 5 1年以上

③-1 貴薬局の新入局研修での各研修内容の有無をお答えください。また、実施している研修内容について、研修開始時期及び研修実施期間をお答えください。

実施有無	研修項目	研修開始時期	研修期間
有・無	調剤 (計数・散剤・水剤・軟膏など)	研修開始から___か月目	___か月間
有・無	セルフメディケーション(OTC医薬品・検査薬等の販売)	研修開始から___か月目	___か月間
有・無	衛生・生活用品の販売	研修開始から___か月目	___か月間
有・無	麻薬調剤	研修開始から___か月目	___か月間
有・無	無菌調製	研修開始から___か月目	___か月間
有・無	保険制度	研修開始から___か月目	___か月間
有・無	処方監査・疑義照会	研修開始から___か月目	___か月間
有・無	服薬指導・記録	研修開始から___か月目	___か月間
有・無	健康相談	研修開始から___か月目	___か月間
有・無	在宅業務	研修開始から___か月目	___か月間
有・無	地域連携	研修開始から___か月目	___か月間
有・無	医療安全	研修開始から___か月目	___か月間
有・無	感染対策	研修開始から___か月目	___か月間
有・無	その他 ()	研修開始から___か月目	___か月間

③-2 研修項目「在宅業務」について、研修内容に含めている薬局外の医療・介護関係者との連携をお答えください。(複数回答可)

- 1 医師の訪問診療への同行

- 2 医師とのカンファレンス等への同席
- 3 ケアマネジャーとの打合せ等への同席
- 4 サービス担当者会議への同席
- 5 家族等介護者への説明への同席
- 6 介護施設等におけるスタッフとのカンファレンスへの同席
- 7 後見人との面会への同席
- 8 その他()

④-1 貴薬局の新入局研修での到達目標の設定についてお答えください。また、設定している場合はその目標設定の特徴をお答えください。

1 到達目標を設定している

到達目標の特徴:

2 到達目標を設定していない

④-2 貴薬局の新入局研修での到達目標の設定等に際して、当てはまるものをお答えください。(複数選択可)

- 1 面談でキャリアプランを提示し、上長が個別に設定し、管理している
- 2 研修者本人が到達目標を設定し、管理している
- 3 予めプログラムに基づいた目標を用意し、研修者がチェックする

④-3 貴薬局の新入局研修で評価が目標に達していない場合のフォローアップ体制についてお答えください。

自由記載

⑤-1 貴薬局の新入局研修での評価体制についてお答えください。(複数回答可)

また、実施している評価方法について、その特徴をご記載ください。

1 評価票を用いて評価を実施

特徴:

2 面談により評価を実施

特徴:

3 その他

特徴:

4 評価体制はない

⑤-2 貴薬局の新入局研修での評価方法についてお答えください。

- 1 自己評価のみ
- 2 上長等による第三者評価のみ
- 3 自己評価と第三者評価の両方

⑥ 貴薬局の新入局研修での指導担当責任者の設置状況についてお答えください。

- 1 設置している
- 2 設置していない

→ 続いて(9)以降のご回答をお願いします。

(4) 「新卒者、既就労者で別のプログラムを実施」の場合

① 貴薬局での新卒者に対する研修プログラムの導入年月についてお答えください。なお、導入年月が不明の場合は、概ねのご回答で構いません。

西暦 年 月より導入

② 貴薬局の新卒者に対する研修プログラムの研修期間についてお答えください。

- 1 1か月未満
- 2 1か月～3か月未満
- 3 3か月～6か月未満
- 4 6か月～12か月未満
- 5 1年以上

③-1 貴薬局の新卒者に対する研修プログラムの各研修内容の有無をお答えください。また、実施している研修内容について、研修開始時期及び研修実施期間をお答えください。

実施有無	研修項目	研修開始時期	研修期間
有・無	調剤 (計数・散剤・水剤・軟膏など)	研修開始から 月 日 月目	月間
有・無	セルフメディケーション(OTC医薬品・検査薬等の販売)	研修開始から 月 日 月目	月間
有・無	衛生・生活用品の販売	研修開始から 月 日 月目	月間
有・無	麻薬調剤	研修開始から 月 日 月目	月間
有・無	無菌調製	研修開始から 月 日 月目	月間

有・無	保険制度	研修開始から___か月目	___か月間
有・無	処方監査・疑義照会	研修開始から___か月目	___か月間
有・無	服薬指導・記録	研修開始から___か月目	___か月間
有・無	健康相談	研修開始から___か月目	___か月間
有・無	在宅業務	研修開始から___か月目	___か月間
有・無	地域連携	研修開始から___か月目	___か月間
有・無	医療安全	研修開始から___か月目	___か月間
有・無	感染対策	研修開始から___か月目	___か月間
有・無	その他 ()	研修開始から___か月目	___か月間

③-2 研修項目「在宅業務」について、研修内容に含めている薬局外の医療・介護関係者との連携をお答えください。(複数回答可)

- 1 医師の訪問診療への同行
- 2 医師とのカンファレンス等への同席
- 3 ケアマネジャーとの打合せ等への同席
- 4 サービス担当者会議への同席
- 5 家族等介護者への説明への同席
- 6 介護施設等におけるスタッフとのカンファレンスへの同席
- 7 後見人との面会への同席
- 8 その他()

④-1 貴薬局の**新卒者に対する**研修プログラムの到達目標の設定についてお答えください。また、設定している場合はその目標設定の特徴をお答えください。

1 到達目標を**設定している**

到達目標の特徴:

2 到達目標を**設定していない**

④-2 貴薬局の新卒者に対する研修プログラムでの到達目標の設定等に際して、当てはまるものをお答えください。(複数選択可)

- 1 面談でキャリアプランを提示し、上長が個別に設定し、管理している
- 2 新卒者本人が到達目標を設定し、管理している
- 3 予めプログラムに基づいた目標を用意し、研修者がチェックする

④-3 貴薬局の新卒者に対する研修プログラムで評価が目標に達していない場合のフォローアップ体制についてお答えください。

自由記載

⑤-1 貴薬局の新卒者に対する研修プログラムの評価体制についてお答えください。(複数回答可)

また、実施している評価方法について、その特徴をご記載ください。

1 評価票を用いて評価を実施

特徴:

2 面談により評価を実施

特徴:

3 その他

特徴:

4 評価体制はない

⑤-2 貴薬局の新卒者に対する研修プログラムでの評価方法についてお答えください。

- 1 自己評価のみ
- 2 上長等による第三者評価のみ
- 3 自己評価と第三者評価の両方

⑥ 貴薬局の新卒者に対する研修プログラムの指導担当責任者の設置状況についてお答えください。

- 1 設置している
- 2 設置していない

→ 続いて(9)以降のご回答をお願いします。

(5) 「新卒者、既就労者で同一の实地研修(OJT)を実施(プログラムは未策定)」の場合

- ① 貴薬局での实地研修(OJT)修了の判断についてお答えください。(複数回答可)
また、その評価の判断者や期間などを併せてお答えください。
- 1 管理者等による評価(判断者:管理薬剤師・開設者・その他())
 - 2 期間を設定している(か月)
 - 3 チェックリスト等を策定し、当該内容を修了した時点
 - 4 その他()

→ 続いて(9)以降のご回答をお願いします。

(6) 「新卒者、既就労者で別の实地研修(OJT)を実施(プログラムは未策定)」の場合

- ① 貴薬局での实地研修(OJT)の内容をどのように設定しているかお答えください。(複数回答可)
- 1 新卒者には指導担当者を付けるが、既就労者は管理者等の管理とする。
 - 2 新卒者にはチェックリスト等により修了を判断するが、既就労者は適応していない。
 - 3 新卒者には期間を設けているが、既就労者に対しては適宜判断をしている。
 - 4 その他()

→ 続いて(9)以降のご回答をお願いします。

(7) 「その他」の場合

- ① 貴薬局で行われている研修の概要をご記載ください。

自由記載

→ 続いて(9)以降のご回答をお願いします。

(8) 「新入局研修」を実施していない場合

- ① 貴薬局における新入局時から実務につくまでの経過について、その概要をお答えください。

自由記載

(9) 貴薬局で、今後、薬剤師を採用する場合、病院での卒後研修修了者(勤務経験者)と病院薬剤部での研修経験のない新人薬剤師のどちらを採用した方が、薬局における薬物治療管理の質の向上につながると考えますか。また、その理由についても併せてお答えください。

- 1 病院での卒後臨床研修修了者
- 2 病院経験のない新人薬剤師
- 3 どちらともいえない

その理由:

(10)－1 貴薬局の薬剤師を病院での研修に派遣するとすれば、病院ではどのような研修を行ってほしいと考えますか。(複数回答可)

- 1 無菌調製業務
- 2 院内製剤業務
- 3 注射薬調剤業務
- 4 DI業務
- 5 在庫管理等の業務
- 6 薬剤師外来業務
- 7 病棟業務
- 8 がん化学療法業務
- 9 緩和ケア業務
- 10 救命救急・集中治療室での業務
- 11 周術期管理業務
- 12 その他()
- 13 特にない

(10)－2 薬局薬剤師の資質向上につなげるために、病院の研修で身に付けて欲しいものは何と考えますか。(複数回答可)

- 1 医療における倫理性
- 2 医療従事者間のコミュニケーション能力
- 3 患者への服薬指導能力
- 4 医療安全への対応力
- 5 調剤技術
- 6 生涯学習への意欲
- 7 問題解決能力
- 8 薬物治療の知識
- 9 その他()
- 10 特にない

(11) 病院の薬剤師が薬局で研修を受けることについて、どのように考えますか。

自由記載

問3. 貴薬局での卒後臨床研修の受入れについて

現在検討中の(添付)『令和4年度 卒後臨床研修の効果的な実施のための調査検討事業「薬剤師卒後臨床研修ガイドライン」(案)(抜粋)』において、病院での研修を基本とし、一部のプログラムを薬局で行うこととしております。貴薬局において「ガイドライン」に基づいた卒後臨床研修を行うことは可能かお答えください。

※具体的な研修項目等は、「ガイドライン(案)」第2章「2-6 在宅訪問(在宅医療・介護)」、「2-9 地域連携」を主として、必要に応じて病院と薬局が連携した研修です。薬局での研修の指導者とし

て、『薬剤師卒後臨床研修における指導薬剤師の要件（案）』が検討されています。なお、この「ガイドライン（案）」の内容につきましては、今後変更される可能性があります。ご一読のうえご回答ください。

(1) 薬局でこの「卒後臨床研修ガイドライン（案）」に基づく、「在宅訪問」、「地域連携」の研修を受入れることについて、受入実施の可否をお答えください。

- | | | |
|----------|------------|--------|
| 1. 可能 | 2. 検討の余地あり | 3. 不可能 |
| 4. わからない | 5. その他（ | ） |

(2) (1)において、「可能」もしくは「検討の余地あり」の場合、最大で何名の研修者の受け入れが可能かお答えください。

(人)

(3) 仮に「卒後臨床研修ガイドライン（案）」に基づいた研修を行うことになった場合に、考えられる問題点を挙げてください（複数回答可）。

1. 指導薬剤師の教育・育成にかかる時間がない
2. 研修者を教育できる指導薬剤師がない
3. 研修用の指導ツールがない
4. 指導薬剤師として研修に割く人員がない
5. 研修者を送り出すための人力的余力がない
6. 特に問題なし
7. その他（ ）

調査へのご協力ありがとうございました。ご回答は Web 回答フォームよりお願いします。

令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)

薬剤師のキャリア形成促進に関する研究 薬剤師調査票(控)

本調査(薬剤師調査)は、貴薬局に所属している薬剤師の方で免許取得から概ね10年以内の方3名までがご回答ください。

※ 本様式はお手元の控用としてご利用いただき、ご回答は下記の Web 回答フォームよりお願いいたします。なお、セキュリティ等により下記 URL に接続できない場合は、スマートフォンなどからご回答いただいても構いません。

URL: <https://www.islms.jp/portal/career-p/>

【ご回答締切日:令和6年3月予定】

所属薬局名: _____

電話番号: _____ () _____

(1) あなたが所属する薬局の所在地をお答えください。

_____ 都・道・府・県

(2) あなたの薬剤師としての勤務経験についてお答えください。また、病院等での薬剤師経験(薬剤師免許が必要となる業務への従事経験)があれば、その内容を併せてお答えください。

1 2021年4月から2023年現在の間、薬剤師免許を取得後、薬局薬剤師として勤務(病院薬剤師等の経験なし)

2 2021年4月から2023年現在の間、薬剤師免許を取得後、病院薬剤師などの勤務経験あり

→ 勤務先: _____ として _____ 年 _____ か月間勤務

3 2021年3月以前に薬剤師免許を取得後、薬局薬剤師として勤務(病院薬剤師等の経験なし)

4 2021年3月以前に薬剤師免許を取得後、病院薬剤師などの勤務経験あり

→ 勤務先: _____ として _____ 年 _____ か月間勤務

(3) 現在、あなたが保有している認定資格についてお答えください。(複数選択可)

- 1 研修認定薬剤師(日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、日本薬剤師会 JPALS 認定薬剤師など)
- 2 医療薬学専門薬剤師(日本医療薬学会)
- 3 地域薬学ケア専門薬剤師(日本医療薬学会)
- 4 地域薬学ケア専門薬剤師(がん)(日本医療薬学会)
- 5 がん専門薬剤師(日本医療薬学会)
- 6 外来がん治療専門薬剤師(日本臨床腫瘍薬学会)
- 7 緩和薬物療法認定薬剤師(日本緩和医療薬学会)
- 8 その他()
- 9 認定資格なし

(4) あなたの外部研修(薬剤師会等による研修会、学会参加等)の受講頻度(年平均)をお答えください。

約 _____ 回/年

(5) あなたが薬剤師として経験した研修(研修期間延べ1か月以上、薬学生の実務実習・自己研鑽を除く)について、お答えください。(複数選択可)

- 1 現在の職場(薬局)における研修(採用時の新人研修を含む)
- 2 病院・診療所における研修(採用時の新人研修を含む)
- 3 認定・専門薬剤師を取得するための研修
- 4 その他()
- 5 1か月以上に亘る研修を受けたことがない

(6) -1 あなたが薬局薬剤師として勤務する上で有意義だと思う研修(研修中も有給であることを前提とする)をお答えください。(複数選択可)

- 1 地域包括ケアシステムに関する研修(健康サポート、地域連携薬局の要件となっている研修)
- 2 現在勤務する薬局がある医療圏内での病院における研修
- 3 現在勤務する薬局がある医療圏内とは関係なく、病院における研修
- 4 認定・専門薬剤師の認定取得に必要な研修
- 5 接遇・コミュニケーションに関する研修
- 6 災害医療に関する研修
- 7 市販薬に関する研修
- 8 在宅業務に関する研修
- 9 自己のスキルアップ(知識習得)のための研修
- 10 その他()
- 11 有意義だと思う研修はない

(6)－2－1 前問で2もしくは3を選択された方は、病院における研修を受ける時期について、適切と思う時期をお答えください。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 免許取得後1年以内 | 2 免許取得後2～5年以内 |
| 3 免許取得後5年超経過後 | 4 その他() |

(6)－2－2 前問で2もしくは3を選択された方は、病院研修で経験したい業務をお答えください。(複数選択可)

- | | |
|--------------------|------------|
| 1 無菌調製業務 | 2 院内製剤業務 |
| 3 注射薬調剤業務 | 4 DI業務 |
| 5 在庫管理等の業務 | 6 薬剤師外来業務 |
| 7 病棟業務(具体的な診療科は:) | |
| 8 がん化学療法業務 | 9 緩和ケア業務 |
| 10 救命救急・集中治療室での業務 | 11 周術期管理業務 |
| 12 その他() | |

(7) あなたが薬局薬剤師として、今後取り組んでいきたい学術活動をお答えください。(複数選択可)

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 学会等でのポスター・口頭発表 | 2 論文投稿 |
| 3 学位(薬学博士)の取得 | 4 学位(薬学博士以外)の取得 |
| 5 その他(具体的に) | |
| 6 取り組みたい学術活動はない | |

(8) 病院における研修経験・実務経験を要件に加えることで、各薬局機能の質向上に繋がると思われる薬剤師の立場について、お答えください。(複数選択可)

- 1 管理薬剤師
- 2 地域連携薬局、専門医療機関連携薬局の薬剤師
- 3 かかりつけ薬剤師
- 4 健康サポート薬局の薬剤師
- 5 各学会の認定薬剤師
- 6 その他()
- 7 薬局機能の質向上につながるものはない

(9) あなたの薬剤師としての将来的なキャリア形成について、現状で考えているものをお答えください。(複数選択可)

- 1 認定薬剤師の取得(研修認定薬剤師、JPALS 認定薬剤師など)
- 2 領域別薬剤師等の取得 (具体的に:)

- 3 専門薬剤師の取得（具体的に：）
- 4 高度専門（指導）薬剤師の取得（具体的に：）
- 5 その他（）
- 6 わからない

※ 領域別薬剤師等、専門薬剤師、高度専門（指導）薬剤師の別については別紙をご確認ください。

(10) あなたが薬剤師の研修について、望むことがあればお答えください。

自由記載：

調査へのご協力ありがとうございました。ご回答は Web 回答フォームよりお願いします。

主な領域別認定・専門薬剤師

認定領域	領域別薬剤師等	専門薬剤師	高度専門(指導)薬剤師	認定組織
薬物療法		薬物療法専門薬剤師	薬物療法指導薬剤師	日本医療薬学会
がん		がん専門薬剤師	がん指導薬剤師	日本医療薬学会
	がん薬物療法認定薬剤師	がん薬物療法専門薬剤師		日本病院薬剤師会
	外来がん治療認定薬剤師	外来がん薬物療法専門薬剤師		日本臨床腫瘍学会
感染症	感染症認定薬剤師	感染症専門薬剤師		日本病院薬剤師会
	HIV感染症薬物療法認定薬剤師	HIV感染症専門薬剤師		日本化学療法学会
	抗菌薬薬理学認定薬剤師、外来抗感染薬認定薬剤師			ICD制度協議会
	ICD(インフュージョンコントロールドクター)*			日本結核病学会
精神科	精神科薬物療法認定薬剤師	精神科専門薬剤師		日本病院薬剤師会
	妊婦・授乳婦	妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師	妊婦・授乳婦専門薬剤師	日本病院薬剤師会
腎臓病	腎臓病薬物療法認定薬剤師	腎臓病薬物療法専門薬剤師		日本腎臓病薬物療法学会
緩和	緩和薬物療法認定薬剤師	緩和専門薬剤師	緩和指導薬剤師	日本緩和医療学会
小児	小児薬物療法認定薬剤師			日本薬剤師研修センター
高齢者	老年薬学認定薬剤師			日本老年薬学会
内分泌・代謝疾患	糖尿病療養指導士*			日本糖尿病療養士認定機構
	糖尿病薬物療法認定薬剤師*			日本くすりと糖尿病学会
	骨粗鬆症マネジャー*			日本骨粗鬆症学会
救急・中毒	救急認定薬剤師	救急専門薬剤師		日本臨床救急医学会
	認定クリニカル・トキシコロジスト*			日本中毒学会
医薬品情報	認定薬剤師*	医薬品情報専門薬剤師		日本医薬品情報学会
	医療情報技師*		上級医療情報技師*	医薬品ライフタイムマネジメント(DLM)センター
医療薬学一般	認定薬剤師	医療薬学専門薬剤師/地域薬学ケア専門薬剤師	指導薬剤師	日本医療薬学会
	日病薬病院薬学認定薬剤師*			日本病院薬剤師会
臨床薬理・臨床試験	認定薬剤師		指導薬剤師	日本臨床薬理学会
	認定CRD*		認定Senior Clinical Research Professional (SCRP)*	
漢方薬・生薬	漢方薬・生薬認定薬剤師			日本薬剤師研修センター
女性医学		認定女性ヘルスケア専門薬剤師		日本女性医学学会
プライマリケア・在宅医療	日本プライマリ・ケア認定薬剤師*			日本プライマリ・ケア連合学会
	総務認定指導者(認定指導薬剤師)	総務認定専門指導者(専門薬剤師)		日本禁煙学会
在宅療養支援	在宅療養支援認定薬剤師*			日本在宅薬学会
	核医学	核医学認定薬剤師		日本核医学会
免疫疾患	免疫薬剤師			日本リウマチ財団
梅毒	認定師*			日本梅毒学会
在宅梅毒予防・管理師*				
生活習慣病	生活習慣病改善指導士*			日本栄養学会
栄養療法	栄養サポートチーム(NST)専門栄養士*			日本栄養指導学会
健康食品・サプリメント	健康食品領域研修認定薬剤師*			神戸薬科大学
ドーピング	NS・サプリメントアドバイザー*			日本サプリメントアドバイザー認定機構
	スポーツファーマシスト			日本アンチドーピング機構

*は認定資格として薬剤師が含まれるもの

★はCPC認定・特定領域認定制度

赤字はR2変更分
緑色はR3変更分

青字はR4変更分

矢野育子(国立大学法人 神戸大学 医学部附属病院)

国民のニーズに応える薬剤師の専門性のあり方に関する調査研究資料より抜粋